

2008 年度春季実態調査

村上 俊介

日 程：2009 年 3 月 14 日（土）～20 日（金）

参加人数：23 名

行 程：3 月 14 日 羽田→金浦空港 ソウル泊
15 日 独立記念館か統一展望台へオプション
16 日 韓国労働研究所訪問、壇国大学社会科学研究所との合同研究会
17 日 ソウル→光州市 全南大学 5.18 研究所、記念墓地、記念財団訪問
18 日 光州市→蔚山 現代自動車工場見学 釜山へ
19 日 釜山 金型メーカー楊亭社訪問、人的資源研究院研究員レクチャー
20 日 早朝 チャガルチ市場見学 釜山→成田

3 月 15 日（日）

各人別途料金を支払って、独立記念館と統一展望台の 2 コースに分かれて小ツアー実施。独立記念館は 1919 年 3.1 独立運動を記念する施設。

3 月 16 日（月）

10:00-12:00 韓国労働研究院訪問。

この研究所は 1988 年に設立され、韓国の労使関係の調査研究と提案を行なう研究機関である。ここで主任教授の金勳（Kim Hoo）氏から韓国の労働運動について日本語による全般的なレクチャーを受けた。その内容は、第一に韓国の労働組合の組織率は 2007 年 10.8%と低い。そのナショナルセンターは中小企業労組を組織する経済主義的な韓国労総、大企業労組を組織する政治主義的な民主労総に分かれる。第二に、労使関係は長期的には安定化の傾向が見られる。第三に内需の不振やアメリカ初の経済不振によって労働市場にマイナス傾向が見られる。第四に今後は李明博政権の経済活性化は、安定的な労使関係にかかっている。以上である。

このあと、社研側参加者を代表して内田所長、村上事務局長、宮寄研究会担当の三人（全て当時の役職）で院長 Ki Seong Park 氏に挨拶。



3月16日 韓国労働研究院にて金勲教授の報告

14:00-20:00 檀国大学にて合同研究会および懇親会。

研究会会場では、檀国大の教員が17人、専修大の教員が20人、それに日本語のできる学生数人がアシスタントとして対応してくれた。



3月16日 檀国大にて

事前の準備段階で専修大社研は檀国大学社研と合同研究会を開き、そこで経済・労働・産業の3テーマ別に、双方で6人の報告者が報告と質疑を行う形式とすることになっていた。それぞれのレジュメは日韓の言語に翻訳して事前に用意したので、報告には通訳をつけず、質疑のみ檀国大側で通訳を入れる、という段取りであった。通訳はLimSang Hyuk氏とKim Byong氏に行なっていた。



3月16日 檀国大での合同研究会にて総長を前に内田所長（当時）挨拶

合同研究会の次第は以下のようなものである

紛争解決センター長 Kim Tai Gi 氏の挨拶（英語）、そして内田所長の挨拶（英語）、そのあと総長 Chan Ho-Sung 氏による挨拶。

報告は（敬称略）

- ①高橋祐吉 「現代日本における『労働の世界』」
- ②Kim Tai Gi 経済学部教授「韓国の労使関係」（英語）
- ③宮寄晃臣 「逆噴射するグローバル資本主義と日本経済」
- ④Shim Ji Hong 経済学部教授（ハングル） 「IMF以降韓国経済のパラダイム変化」
金大中一盧武鉉—李明博政権の経済政策とくに労使関係。前二者で失敗した労働・公共部門の改革を李明博政権が規制緩和の方向で果敢に実施することを期待。
- ⑤水川侑 「日本ビール業界の現況」
- ⑥Lim Sang Hyuk 経営学部教授（日本語）「IMF以後の韓国企業の人事システムの特徴」

人事システム（成果主義導入）の正否。韓国型成果主義モデルを作る必要ありとの指摘。
このあと質疑の司会は日本語のできる社会学部の Kim Byong Ryang 教授による。6 時 30 分終了。その後、キャンパス内の別会場にて檀国大主催による懇親会。

3月17日（火）

8:00 ソウル発ー12:10 光州着

14:00-16:00 全南大学 5.18 研究所にて呉在行政学部教授と閔炳老教授より、1980 年 5 月 18-27 日の光州民衆抗争（いわゆる「光州事件」）のレクチャーを受け質疑応答。

呉在一氏は 5.18 民衆抗争の当事者でもあり、経験を踏まえた当時の状況を説明してくれた。特にあの事件が民衆の「正当防衛」の戦いであったことが強調された。

閔炳老氏は 5.18 の韓国における歴史的位置づけと、全南大学 5.18 研究所の活動内容を紹介してくれた。質疑応答については本文の中で触れられるだろうから、ここでは省略する。

16 : 30～17 : 30 5.18 民主墓地参拝と敷地内の展示館見学

18 : 00～18 : 30 市内 5.18 記念館の中にある記念財団訪問。



3月17日 光州市の全南大学 518 研究所にて



3月17日 光州市の全南大学にて合同懇談会

3月18日（水）

7:30 光州発（11:15 蔚山着）

13:00－14:00 現代自動車蔚山工場見学

16:30 釜山着



3月18日 現代自動車蔚山工場にて

3月19日（木）

10:10 釜山市内の金型メーカー「楊亭」社訪問。

専務は Park Hee Young 氏、日本語で対応してくれたのが海外営業部の An Chung Myong 氏。
この若い An 氏が、用意されたスライドを説明した。

この会社は 1971 年に設立された釜山では初めてで、全国的には 2 番目にできた金型メーカーである。家電製品や自動車はたまたパチンコのプラスチック部品のための金型を作っている。従業員 32 人の中堅企業だが、中には 3 人の日本語のできる社員がいるので、日本との営業は得意。



3月19日 楊亭社訪問

13:00-15:00 ホテル会議室にて、人的資源開発研究所の Kim Kyung-Won 氏がレクチャーを行なった。通訳は本学兼任講師姜徳洙氏。タイトルは「釜山の産業現況と人的資源開発」で、前半に釜山の経済状況について、後半が人的資源開発研究院の活動内容。



3月19日 釜山にて人的資源研究所 Kim Kyung-Won 氏のレクチャー

3月20日（金）

この日、早朝のチャガルチ市場（魚市場）を見学して釜山空港へ。

11:45 釜山発、成田へ。成田空港にて解散。